

レプリカ環境サーバでのアップグレード手順（2019.1 -> 2020.1）

説明

レプリカ環境サーバでのアップグレード手順（2019.1 -> 2020.1）を説明しています。
※パッケージインストールではない場合の手順です。

注意

- ・ LinuxOSでの作業手順です。
- ・ Helix Coreサーバを起動しているOSユーザが"root"として説明を行っています。
"root"以外のユーザで実行している場合、環境に合わせたコマンド実行ユーザと権限設定をお願いします。
ご不明の場合は、作業前にテクニカルサポートまでご連絡ください。

手順



重要

この手順では、以下のコミット - エッジサーバ構成でのアップグレード手順を紹介しています。

例) エッジサーバ2 --- エッジサーバ1 --- コミットサーバ

レプリカ環境構成では、外側のサーバ(例ではエッジサーバ2)からアップグレードを行い、次にエッジサーバ1のアップグレードを行います。
最後に、エッジサーバ1と2を停止したまま、コミットサーバのアップグレードを行います。

1. エッジサーバ2の停止

以下のコマンドから、エッジサーバ2を停止します

実行コマンド：エッジサーバ2の停止

```
p4 -p server:port -u super admin stop
```

- ※ **server:port**：アップグレード対象のサーバ(ここではエッジサーバ2)を指定
- ※ **super**：super権限ユーザを指定

2. エッジサーバ1の停止

以下のコマンドから、エッジサーバ1を停止します。

実行コマンド：エッジサーバ1の停止

```
p4 -p server:port -u super admin stop
```

- ※ **server:port**：アップグレード対象のサーバ(ここではエッジサーバ1)を指定します。
- ※ **super**：スーパー権限ユーザを指定

3. コミットサーバの停止

以下のコマンドから、コミットサーバを停止します。

実行コマンド：コミットサーバの停止

```
p4 -p server:port -u super admin stop
```

- ※ **server:port**には、アップグレード対象のサーバ(ここではコミットサーバ)を指定
- ※ **super**には、スーパー権限ユーザを指定

4. チェックポイントの取得【コミットサーバで作業します】

p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

実行コマンド例：チェックポイントの取得

```
p4d -r P4ROOT -jd
```

※ **P4ROOT**には、環境に適したパスを指定

5. チェックポイントの取得【エッジサーバで作業します】

p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

実行コマンド例：チェックポイントの取得

```
p4d -r P4ROOT -jd
```

※ **P4ROOT**：環境に適したパスを指定

6. p4dプログラムのバックアップ【全てのサーバで作業します】

既存のp4dプログラムをバックアップします。
ここでは、既存のp4dプログラムが**/usr/sbin**に配置されている前提とします。

バックアップコマンド例

```
mv /usr/sbin/p4d /usr/sbin/p4d_20191
```

7. p4dプログラム(Ver.2020.1)のダウンロード【全サーバで作業します】

ダウンロードサイトからp4dプログラム（Ver.2020.1）をダウンロードします。
ここでは、p4dプログラムを**/tmp**へダウンロードしたとして説明します。

ダウンロードサイト

[Helix Core \(Perforce\) 製品ダウンロード](#)

8. パーミッション設定【全サーバで作業します】

ダウンロードしたp4dプログラムへ実行権を追加するため、以下のコマンドを実行します

パーミッション設定例

```
chmod +x /tmp/p4d
```

9. p4dプログラム(Ver.2020.1)の配置【全サーバ】

手順7でダウンロードしたp4dプログラム(Ver.2020.1)を**/usr/sbin**配下へ配置します。

配置コマンド例

```
mv /tmp/p4d /usr/sbin
```

10. p4dバージョンの確認【全サーバ】

以下のコマンドを実行し、p4dバージョンがアップグレードされていること、コマンドパスが通っていることを確認します。

バージョン確認コマンド例

```
p4d -V
```

期待する結果

```
...  
Rev. P4D/LINUX26X86_64/2020.1/2051818 (2020/12/08).  
License: none
```

11. Helix Coreデータベースの更新【エッジサーバ2で作業します】

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例

```
p4d -r P4ROOT -xu
```

※ P4ROOT : 環境に適したパスを指定

期待する結果

```
Upgrades will be applied from '-xu' at upstream server
```

12. Helix Coreデータベースの更新【エッジサーバ1で作業します】

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例

```
p4d -r P4ROOT -xu
```

※ P4ROOT : 環境に適したパスを指定

期待する結果

```
Upgrades will be applied from '-xu' at upstream server
```

13. Helix Coreデータベースの更新【コミットサーバで作業します】

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

データベーススキーマ更新コマンド例

```
p4d -r P4ROOT -xu
```

※ P4ROOTには、環境に適したパスを指定

期待する結果

```
Upgrades will be applied at server startup.
```

14. コミットサーバの起動

通常手順でコミットサーバを起動します。

起動コマンド例

```
p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d
```

※ P4ROOT : 環境に適したパスを指定

15. Helix Coreバージョンの確認

以下のコマンドを実行し、起動中のコミットサーババージョンがアップグレードされていることを確認します。

バージョン情報確認コマンド例

```
p4 -Ztag info
```

期待する結果

```
...  
serverVersion P4D/LINUX26X86_64/2020.1/2051818 (2020/12/08)
```

16. エッジサーバ1の起動

通常手順でエッジサーバ1を起動します。

起動コマンド例
p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d

※ P4ROOT : 環境に適したパスを指定

17. エッジサーバ2の起動

通常手順でエッジサーバ2を起動します。

起動コマンド例
p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d

※ P4ROOT : 環境に適したパスを指定

アップグレード手順は以上です。